

製品名: STAG3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18332**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	139kDa

抗原情報

遺伝子名	STAG3
別名	STAG3; Cohesin subunit SA-3; SCC3 homolog 3; Stromal antigen 3; Stromalin-3
遺伝子 ID	10734.0
SwissProt ID	Q9UJ98
免疫原	抗血清はヒト STAG3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1161-1210

背景

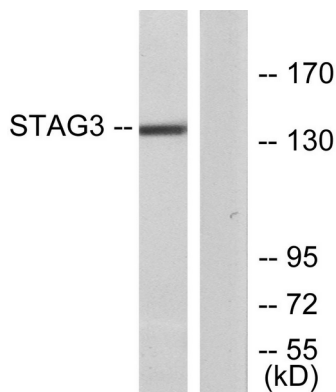
この遺伝子によってコードされるタンパク質は核内で発現し、細胞分裂中の姉妹染色分体の接着を制御するコヒーシン複合体のサブユニットである。この遺伝子の変異は早発卵巣不全と関連している。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコード

する複数の転写産物バリエーションが生じる。この遺伝子には複数の擬遺伝子が存在する。[RefSeq 提供、2014年4月]、機能: コヒーシン複合体の減数分裂特異的構成要素。コヒーシン複合体は、DNA複製後の姉妹染色分体の接着に必須である。コヒーシン複合体は、姉妹染色分体を捕捉できる大きなタンパク質リングを形成すると考えられる。分裂後期には、複合体は切断されてクロマチンから解離し、姉妹染色分体が分離できるようになる。減数分裂特異的コヒーシン複合体は、おそらく前期Iでクロマチンから解離した有糸分裂特異的コヒーシン複合体と置き換わる。類似性: SCC3ファミリーに属する。類似性: 1つのSCD (ストロマリリン保存) ドメインを含む。細胞内局在: クロマチンと関連する。減数分裂前期Iでは、シナプトネマ複合体の軸要素に沿って存在する。パキテン期後期からディプロテン期にかけては、おそらくPLKによるリン酸化により、セントロメアを除き、タンパク質の大部分が染色体腕から解離する。セントロメアではコヒーシン複合体が残存する。しかし、第1中期まではセントロメアにクロマチン結合したままである。第1後期には、おそらくセントロメアから解離し、染色体の分離を可能にする。サブユニット: 減数分裂特異的コヒーシン複合体の構成要素であり、SMC1 (SMC1AまたはSMC1B) およびSMC3ヘテロダイマーも含まれる。この複合体は、RAD21、あるいは減数分裂特異的関連タンパク質REC8を含むと考えられる。組織特異性: 精巣特異的。

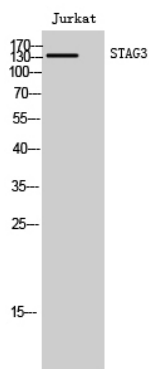
研究分野

卵母細胞減数分裂

画像データ



STAG3抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



STAG3ポリクローナル抗体を使用したJurkat細胞のウェスタンブロット分析。